

## 堤防の補強工事を進めています (桑名市立田町地先)

南海トラフ等の巨大地震に備えた耐震対策として、平成 26 年 7 月から揖斐川右岸堤防川裏（桑名市立田町地先）で地盤改良による堤防の補強工事を行っています。

今後も安全で安心できる堤防工事を進めていく予定です。

工事期間中は、ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



**砂圧入式静的締固め工法 砂杭を打設して地盤を補強します**

**工法説明図**

- ① ロットを所定の深さまで貫入します。
- ② ロットの先端から流動化砂を圧入します。
- ③ ロットを所定の高さまで引き上げ、流動化砂の圧入を繰り返します。

## JICA研修団(バングラデシュ人民共和国)視察

10月27日、JICA研修団（バングラデシュ人民共和国）15名が源緑高潮堤防補強工事の視察に訪れました。バングラデシュ人民共和国はインドとミャンマーに接する南アジアの国で、大河ガンジス川が、繰り返しはん濫に見舞われることから堤防の整備などが急務であるようです。

バングラデシュ人民共和国は木曾三川同様低平地のため、地震による液状化や地盤沈下等についても関心が高く、様々な質問が寄せられ、とても熱心に視察をされました。



耐震補強工事を視察中の JICA 研修団

# 旬な現場 (仮称)七里の渡し地区文化のシンボルエリア見学会

平成 26 年 11 月 29 日  
東海工業専門学校 (43 名)

木曾三川公園  
(仮称)七里の  
渡し地区の整備  
を行っている、  
桑名市住吉は  
『旬な現場\*』と

して、随時現場見学を実施しています。

周辺には、六華苑・諸戸氏庭園・七里の渡し・桑名城石垣跡などがあり、歴史文化の要所となっており当現場においては周辺の重要文化財（イギリス積みレンガ壁や供用水栓）を再現した日本庭園を整備しています。

周辺と一体感のある歴史公園として、今秋一部開園を目指しています。



文化のシンボルエリアイメージ図

※詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/index.html>

## 『旬な現場』見学の様子



歴史に深い関わりのある桑名市



桑名城石垣跡に感動



沢山の色があった昔のレンガ

## 源緑河川防災ステーション起工式を開催しました

12月24日、木曾川下流河川事務所・木曾岬町主催による源緑河川防災ステーション起工式を木曾岬町源緑輪中地内にて開催しました。起

工式は木曾岬町長、三重県議会議員、町議会議員、地元関係者が参加し、とどおりなくとり行われました。

起工式終了後、工事説明会が現地にて実施されました。



加藤 隆  
木曾岬町長



三輪一雅  
木曾岬町議会議員



### 【源緑河川防ステーションの概要】

源緑河川防災ステーションは、資機材の備蓄やヘリポート、水防活動スペース、車両回転スペース、緊急車両用車庫、水防センター(木曾岬町)を整備し木曾川左岸高潮区間の災害復旧活動拠点としての役割を担います。施設規模は堤防延長 200m が 1 箇所破堤した場合を想定し、緊急復旧活動に必要な資機材を備蓄します。平常時には、地域住民が利用できるコミュニティスペースとして、活用されます。

# 河川管理施設見学会〈歴史的な治水施設を訪ねて〉を開催しました

木曾三川下流域に残された歴史文化、風物には、洪水や地震による自然災害と先人たちの知恵や工夫が記されています。治水施設や遺構、地名には、その地にもたらされる可能性のある災害を予見しているものも多くあり、今もなお、河川管理施設として役割を果たしているものも多くあります。宝暦治水が始まって260年にあたる今年度は、江戸時代に造られた施設を中心にしたコースに、30代から80代までの幅広い世代が参加しました。

その時代を見ていたかのような詳しい説明に惹き込まれた参加者は、熱心に質疑を交えながら見学をしていました。

## 平成26年11月5日 薩摩義士の足跡を訪ねて



大巻薩摩工事役館跡視察



牧田川決壊口の碑視察

## 平成26年11月21日 宝暦の御手伝普請 水行奉行高木三家を訪ねて



西高木家視察



明治時代の石積み砂防堰堤視察 吉谷

### 説明・協力を頂いた方々

浄土宗八幡山宝池院天照寺 おくりさん、養老町産業建設部建設課 前田勝治さん、田中稔さん、養老町教育委員会生涯学習課 中島和哉さん、岐阜県大垣市教育委員会 上石津資料館 金森雅之さん、岐阜県大垣土木事務所河川砂防課 藤井忠直さん、河村雅美さん、木曾川文化研究会 久保田稔さん、中村義秋さん

## 災害による死者ゼロにむけて「防災テキスト」を作成

子どもたちがどんな災害に遭った時でも、自らで考えて、自ら命を守る行動ができるように育てたいという思いは、防災関係者共通の願いです。

桑名市教育委員会などの助言を得ながら、防災意識の向上に役立つ小学生向けの防災テキストを作成しました。

今回、伊勢湾台風55年事業の一環として、木曾三川下流部4市1町の小学校全校60校の4年生99学級に配布しました。改良すべき点を把握するために、教科学習などに活用していきます。

詳しくは、木曾川下流河川事務所 Web サイトで。バナーをクリック

**自分で考え自分の命を守る 「防災テキスト」**

わたしたちが住んでいる土地は、濃尾平野とよばれています。濃尾平野には木曾三川といわれる、3つの大きな川が流れています。木曾川・長良川・根尾川です。濃尾平野はこの3つの川によってつくられました。そして、濃尾平野とそこに住む人たちは、なんども大雨や台風による洪水や高潮、地震などの自然災害にあってきました。この本は、濃尾平野や自然災害について学ぶとともに、そうした自然災害がおきたとき、どのようにしてわたしたちの命を守ることができるのかを考えてもらいたいと思ってつくりました。

**基礎編と応用編の二段階で構成されています。**

基礎編では…  
 ①自然災害をわかりやすく解説  
 ②濃尾平野がどのようにして出来たか、木曾三川下流地域の盛り立ちを知る  
 ③風水害や土砂害、地震などの自然災害と、木曾三川下流域との関係を知る  
 ④様々な自然災害にどのように備えたらよいか。

応用編では…  
 自然災害から身を守るための知識を解説  
 ①濃尾平野の地形特性や気象特性  
 ②木曾三川の河川改修の歴史、スーパー伊勢湾台風による想定される高潮被害  
 ③風水害や地震から身を守る

児童用 自分で考え自分の命を守る 防災テキスト

指導者用 自分で考え自分の命を守る 防災テキスト (指導者用)

木曾川下流河川事務所Webサイトよりダウンロードできます。  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>

▼お問い合わせ先  
 国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所  
 〒511-0002 三重県桑名市大字藤島405 TEL.0594-24-5711

## 「冬の光物語」を開催しました 【場所:木曾三川公園センター】

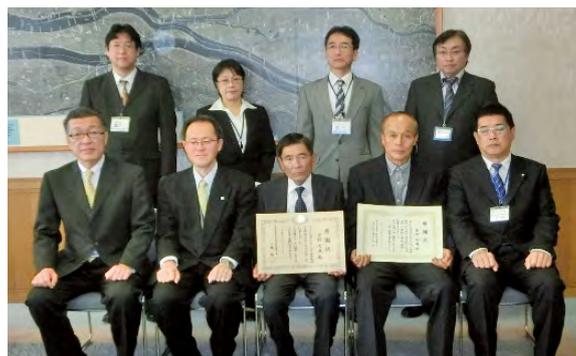
木曾三川公園恒例、冬のイルミネーション。今年のテーマは魔法の国をイメージした体験参加型とし、50万球以上のLEDを使用したロマンチックなイルミネーション空間を多くの方々に楽しんでいただきました。併せてクリスマス期間には最新のプロジェクションマッピングできらめく特別な「リバーサイドプロジェクションナイト」を、12月31日にはカウントダウンステージで年越しの花火を実施しました。



## 河川管理施設の適切な管理・操作に従事した個人に対する表彰式を開催しました

平成26年11月20日(木)、河川管理施設の適切な管理・操作に永年にわたり従事された2名に、感謝状が授与されました。

大変重要な業務にご尽力いただきありがとうございます。



## 木曾三川に関わる研究に触れる「木曾三川流域開放講座」を実施しました

木曾三川に関わる様々な研究成果を直接学ぶ機会である木曾三川流域開放講座を実施しました。高木家文書などの史書、当地に残された碑文の研究から御囲堤など江戸初期から宝暦治水、近代までの治水の変遷や、スーパー伊勢湾台風などの巨大災害、近年多発する自然災害とその歴史的対応をわかり易くお話し頂きました。

愛知県、岐阜県、三重県からのべ150名が参加されて、うち25名は4回連続で、熱心に聴講されました。先人たちの偉業への想いや木曾三川への愛着、新しい知見に対する興味を改めて感じました。

|        |                 |                      |
|--------|-----------------|----------------------|
| 10月14日 | 名古屋大学大学院教授 辻本哲郎 | 「大規模災害の可能性とその対策」     |
| 10月27日 | 木曾川文化研究会 久保田稔   | 「木曾川流域を中心とした自然災害と復旧」 |
| 11月10日 | 岐阜聖徳学園教授 秋山晶則   | 「宝暦治水を中心とした江戸時代の治水法」 |
| 11月25日 | 名古屋大学大学院教授 羽賀祥二 | 「治水功労者の顕彰と記念碑文化」     |



「木曾三川だより」問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 木曾川下流河川事務所 調査課  
〒511-0002 桑名市大字福島 465 TEL.0594-24-5715 FAX.0594-21-0893  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>